

令和 8 年 7 月 9 日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 森ビル株式会社 森美術館

代表者職・氏名 館長 片岡 真実

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和6年8月28日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	ルイズ・ブルジョワ展： 地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ	
開催施設名	会期	入場者数
森美術館	2024 年 9 月 25 日～2025 年 1 月 19 日	196,332 人
●開催概要 ルイズ・ブルジョワ（1911 年パリ生まれ、2010 年ニューヨーク没）は、20 世紀を代表する最も重要なアーティストのひとりであり、六本木ヒルズのシンボルである巨大な蜘蛛の彫刻《ママン》の作者としても広く知られる。女性のエンパワーメントを考える上でも重要な作家であり、本展は時宜にかなう展覧会として、満を持しての開催となった。 本展は、日本国内では 27 年ぶり、かつ最大規模のブルジョワの個展となった。展示はテーマごとの 3 つの章と、初期作品に焦点を当てた 2 つのコラムで構成し、100 点を超える出品作のうち、その 8 割以上が本邦初公開の作品となった。また、初期の重要シリーズに加え、近年評価が進むアジア初公開の絵画作品も包括的に紹介することができた。 本展の副題でもある作家の言葉「地獄から帰ってきたところ言っとくけど、素晴らしかったわ」の通り、生きることへの強い意志を表現する作品群は、戦争や自然災害、病気など、現代社会が直面する様々な課題と向き合うためのヒントを与えてくれるものとなった。 会期中は、朝日新聞（2024 年 11 月 5 日付夕刊）、毎日新聞（2024 年 11 月 11 日付夕刊）、読売新聞（2024 年 12 月 2 日付朝刊）、東京新聞（2024 年 12 月 11 日付夕刊）、日本経済新聞（2025 年 1 月 6 日付）のほか、『芸術新潮 1 月号』（2024 年 12 月 5 日発売）等に展評が掲載された。さらに、NHK『日曜美術館』（2024 年 12 月 1 日放送）でも「和解の糸を紡ぐ旅 ルイズ・ブルジョワ」と題した特集が組まれるなど、多くのメディアで紹介され、各方面から高い評価を得た。こうした広報展開や美術館公式 SNS 等による PR 効果により、来場者数は当初目標の約 15 万人を大きく上回る約 19.6 万人を記録した。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益（軽減された保険料の使途、効果等）の達成状況について、データを提示しながら記入

（１）若年層入場料の無料化

チケット料金体系のなかで、最年少の区分である「中学生以下」を全期間無料とした。

（内訳）

・会期中に来館した中学生以下来場者数：

4,166名×850円＝3,541,100円（税込）

計 3,541,100 円（税込） / 予定額 4,641,300 円（税込）

（２）展示作品の質・量の充実

本制度の適用を受け保険料が軽減されたことにより、ルイズ・ブルジョワの代表作である大型彫刻作品の《かまえる蜘蛛》《罪人２番》の追加借用、展示に関連する費用を確保することができた。

※上記２作品は、国家補償の適用外作品とした。

（内訳）

・《かまえる蜘蛛》《罪人２番》海上輸送関連経費：3,370,000円

・上記大型作品の安全な設営方法を検証するための、構造計算・検証費：1,700,000円

計 5,070,000 円（税込） / 予定額 3,520,000 円（税込）

（３）一般層への普及

従来のプログラムは美術への関心が高い層向けであったが、本制度の活用により、それ以外の一般層も参加できる館外ワークショップの実施が可能となった。保険料の軽減分は、その会場費に充当した。

（内訳）ワークショップ会場費

計：1,098,700 円（税込） / 予定額 1,098,700 円（税込）

予定額合計：9,260,000 円（税込）

実績額合計：9,709,800 円（税込）

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。
文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの

該当事項無し。

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入

・作品所蔵者との契約に基づき、保険評価額を鑑みて輸送便数を振り分けリスク分散を図った。
また、各所にて警備員立ち合いのもと作品の積み込み、積み下ろしを行った。

・ルイズ・ブルジョワの代表作である大型彫刻作品を、作品・観客双方の安全を確保しながら
展示するために、作品の構造計算を行ったうえで展示方法を検証し、設営を行った。

・輸送、展示、撤去ともに余裕のあるスケジュールを組み作品や業務に携わるスタッフの安全面に配慮した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度の適用により保険料負担が軽減されたことで、借用作品の選択肢が広がり内容面で充実した展覧会を実現することができた。特に、ルイズ・ブルジョワの代表作である大型彫刻《かまえる蜘蛛》《罪人2番》の借用展示が叶い、構造計算に基づく安全な設営方法を検証・確立した上で展示できたことは、大規模作品展示における有益な好事例となった。展覧会としては、1938年から1949年までのブルジョワの絵画作品を東アジアで初めて包括的に紹介できたことも、意義深いものであったと考える。

また、中学生以下の無料化を実施できたことは、幅広い層への鑑賞機会の提供につながり、本制度の「広く国民にすぐれた美術品鑑賞機会を提供する」という趣旨に合致する。
今後も本展で得た知見を活かし、作品、鑑賞者双方の安全確保と、幅広い層への鑑賞機会提供を両立させながら、多くの方へ優れた美術鑑賞の機会を継続的に提供していきたい。

6. 展覧会の収支決算書（税別）

主催者名：森美術館、読売新聞社、NHK

●収入

区分	内 訳	万円
展覧会収入	入場料、図録、グッズ等	32,455
その他の収入	協賛金・主催者負担等	3,040
収入総額		35,495

●支出

区分	内 訳	万円
基本経費	輸送費、施工費、作品保険料、広告宣伝費、ほか	24,742
その他の支出	運営費用、施設関連費ほか	10,753
支出総額		35,495